

# 老健ねいがた

第37号

2015. 3 Vol. 37



「富士山」(そよかぜ倶楽部)

## 目次

巻頭言	1	市民公開セミナー	14
お詫び・協会だより	2	新潟県介護老人保健施設大会	15~16
特集:職員のモチベーション向上への取り組み	3~7	老健とわたし	17~18
研修会報告	8~13	みんなの広場	19

# 卷頭言

## 老健の役割と今後

新潟県介護老人保健施設協会  
トラブル防止検討委員会担当理事

三面の里 戸澤和夫



昨年は大雨や火山の噴火などの自然災害が多く発生し、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今政府及び厚生労働省では、急性期慢性期をすべて含めた医療福祉の大きな機構変革が検討されています。その中で介護老人保健施設の役割といいますか、位置づけはどのようなものになるのでしょうか。私がこの新潟県村上市の老人保健施設の三面の里に施設長として着任したのは平成8年でした。そのころ村上市にはほかに老人保健施設はありませんでした。しかし、当施設は老健本来の役割といわれていた家庭復帰までのリハビリを中心とした通過施設とは言えず特別養護老人ホームと大差のない状態でした。勿論この傾向は新潟県の県北に限ったことではなく全国的なことであったようでした。そのため国は平成10年頃だったと記憶しておりますが通減制を導入しました。通減制とはどのようなものかといいますと、入所期間が一定を超えると報酬が減額される制度です。三か月六か月と段階的に下げられていったと記憶しております。その後老人保健施設に大きな変化があったのが平成12年4月からの介護保険制度の導入でした。先ほどの通減制はなくなり報酬的に比較的評価されましたがケアプランの作成が必要となり、事務の手間は増大しケアマネージャーが必須人員となりました。その後も老健の経営には厳しい細かい制度の変更が続きました。介護療養型病床の廃止を目指し強化型老健なるものも新設されました。また、ここ数年では在宅重視の政策が進められております。このような状況下で今後の老健の役割はどうになっていくのでしょうか。現時点では政策を注視しつつ、各施設が利用者のために最善をつくしていくことしかないと考えています。

本年も会員の皆様、各施設の職員の皆様のご活躍を期待しております。

# お詫び

平成26年9月発行の当協会広報誌「老健にいがた」第36号に掲載いたしました平成25年度介護米百俵賞受賞演題に関する記事の中で、共同研究者の方のお名前を遺漏しておりました。

確認不足のため、ご迷惑をお掛けしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

関係各位におかれましては、畏れ入りますが読み替えていただければ幸いです。

新潟県介護老人保健施設協会 広報委員会  
事務局

平成25年度 介護米百俵賞受賞演題

## 平成25年度介護米百俵賞受賞演題

平成25年度介護米百俵賞に選ばれました  
介護老人保健施設なでしこの演題をご紹介します。

### 車椅子・ベッド周囲の安全に対する工夫

～介助場面における表皮剥離・打撲痕  
発生ゼロを目指して！～

介護老人保健施設なでしこ

渡辺 賢哉 原 弥生  
脇田 昌彦 藤巻 光子  
武藤 泉 渡辺 千津子  
伊藤 千里

(誤)

(正)

介護老人保健施設なでしこ

渡辺 賢哉 原 弥生  
脇田 昌彦 藤巻 光子  
武藤 泉 渡辺 千津子  
伊藤 千里



## 第25回 全国介護老人保健施設大会 岩手

第25回全国介護老人保健施設大会 岩手（大会会長＝長澤茂全老健岩手県支部長・岩手県介護老人保健施設協会会长）が、平成26年10月15日から17日までの3日間、「雨ニモマケズ 風ニモマケズ～震災を乗り越えて めざそう 夢のある老健を～」をテーマに、盛岡市の岩手市民文化ホール（マリオス）など7会場で開催されました。

各発表会場に分かれて行われた演題発表は、1,223題（口演発表1,132題、ポスター発表91題）でした。そのうち、新潟県から参加した施設（11施設）の演題発表は、18演題（口演発表16題、ポスター発表2題）でした。

また、平成25年に開催されました第24回全国介護老人保健施設大会 石川in金沢の演題発表優秀奨励賞に、新潟県から参加した施設の演題発表（29題）の中から2演題が選ばれました。

### ～全国大会 石川in金沢 演題発表 優秀奨励賞 受賞演題～

- ・煮～菜がおいしいなあ～ 食べることの楽しみを思い出すために  
(サンプラザ長岡)
- ・介護老人保健施設における看取りの現状と課題  
施設内死亡例99例の検討から見えてくる看取りの課題  
(ケアポートすなやま)



# 「褒め合えば、やる気UP! 楽しさUP!」

## ～褒め合い活動について～

介護老人保健施設  
はつらつりハビリセンター

施設長 福田 雄三



### 1 ごあいさつ(福田雄三施設長)

この度、平成26年8月に新潟県介護老人保健施設協会よりお電話を頂き、「千葉県の老健協会で発行している“なのはなだより”を拝見しました。御施設の「褒め合い活動」を新潟県老健協会の広報誌に掲載したいのですが、如何でしょう」とのお話を頂きました。思ってもいなご提案に嬉しさのあまり私は鳥肌が立ち、ふたつ返事で「やらせて頂きます。」と答えました。

当施設は千葉県千葉市若葉区にある社会福祉法人はつらつの里が母体の老健で、平成9年11月に開設し、今年で18年目を迎える施設です。

当施設の周りは千葉県の特産である「落花生畑」が多く緑豊かな自然に囲まれた、のんびりとした環境です。

今回の私達の活動が新潟の老健の皆様方に伝わる事、さらにこの広報誌が全国の老健協会にも配布される事を知り、とても感動しております。

一般的に新しい取り組みを行う時には反対意見が大多数になるのが常ですが、その際に私は職場環境作りにおいて「ポジティブなYES」を鍵とする事が大切だと考えています。その為には「ポジティブなYES」を言える役職者や職員を1人ずつ増やしていく事と施設長として「試しにやってみよう！」と後押しする事が必要だと思っています。

この活動に日本のどこかの施設の方が共感して頂けるかもしれないと思うと、とても嬉しいです。1日でも、1人でも多くポジティブな発想（仲間を褒める気持ち）で業務にあたる事の素晴らしさ、そしてそのポジティブな考え方方が日々の業務にプラスの影響を及ぼす事を実感して下さる方が増えるならば幸いです。

### 2 プロジェクトメンバーとして(佐々木和博介護主任)

この活動を立ち上げようと聞いた時、“褒め合い？” “みんな本音言うかな？” というのが正直な感想でした。しかし、私は、以前から離職者を減らしたいと考えており、この活動で少しでも“楽しい職場”という意識が職員の間に高まればという思いが芽生えてきたので、この活動に関わろうと思ったのです。

一回目の褒め合い活動で、思いの外反響があり、多数の褒め合いが集まりました。嬉しいという声が多く聞かれ、手応えを感じました。

二回目の活動では、更に多くの褒め合いが集まりました。この活動を始めてから現在まで離職者はほとんどおらず、全てがこの活動によるものとは断定できませんが、少なからず影響していると思います。

他部署の職員から褒められるというのは、とても嬉しいものです。

今後も褒め合い活動を続け、職員一人一人が職員同士の繋がりを感じられる職場となればと思います。



佐々木介護主任(左)、福田施設長(中央)、福田副施設長(右)

### 3 「褒め合い活動」を始めるきっかけ

(福田裕副施設長・リハビリテーション課長・理学療法士)

以前、千葉県理学療法士学会で「リピーターを生みだすディズニーの人材育成方法」の講義を受けました。そこで『従業員満足を高める事でホスピタリティーが生まれ顧客満足を向上させる。まず従業員満足を高める事が重要である』という事を学びました。従業員満足を高める為に必要なものは報酬だけではなく、仕事をする楽しさや喜び・やり甲斐を向上させる事が重要であると知り、施設内研修の場での報告と提案の機会を持ちました。それをきっかけに、今施設でできる事として職員同士で褒め合う活動をしてみようと始まりました。

### 4 「褒め合い活動」の取り組み

(福田裕副施設長・リハビリテーション課長・理学療法士)

褒め合う活動をしようと決まり、まず職員の中から中心となる人を募集しました。そこで現メンバーの佐々木介護主任が加わり「楽しく仕事をしようプロジェクト」を立ち上げたのですが、立ち上げにあたってはこの活動に対し“書類が増える”“強制的に書かせるの？”“意味がない”などといった消極的な意見もありました。

そこで、この活動はあくまで楽しく仕事をする為のものであり、強制ではなく、書きたい人が好きなように書いて良いという主旨を職員に対して説明し、まずはやってみようと思いつづけに伝えた上で実施しました。

実施内容ですが、対象は職員同士、上司や後輩、また職種にこだわりなく全職員とし、定めた1ヶ月の間に、日頃お互いに仕事をする中で直接口頭では言わないようなお互いの“良い所探し”を行い、その内容を手紙に書いて投書箱へ入れてもらいました。この手紙は実施後の給料日に対象者の給料袋の中に入れて職員に手渡しますので、褒められた本人の手元に届けられます。

手紙は記名式とし、同僚同士や上司から後輩宛て、逆に後輩から上司宛て、また、他職種の職員宛や中には職員個人宛てではなく部署に宛てた手紙等、さまざまな手紙が集まりました。手紙は一人の職員が複数の職員に書いても良い為、かなりの枚数となりました。

次に集まった手紙はプロジェクトメンバーがまとめ、集めた中でも素晴らしい内容については月1回行っている施設内研修の時間の内10分を利用して「十六小節のラブソングのテーマ」をBGMに流しながら発表しました。

研修の内容はいつもレコーダーで録音し全職員が聞けるようにしていて、皆がどのように褒め・褒められているか、また褒められるような素晴らしい活動の内容を共有する事で、一人でも多く業務に取り入れてもらえる様にという目的で実施しました。



施設内研修の場での発表の様子（はつらつリハビリセンター）

## 5 「褒め合い活動」を実施して

（福田裕副施設長・リハビリテーション課長・理学療法士）

現在までに3回の「褒め合い活動」を実施しましたが、どの回も100～300通程度の手紙が集まっています。この活動を始めるにあたっては消極的な意見もありましたが、今では“他部署に目を向けるいい機会になる”や“ぜひ続けてほしい”との意見が多く聞かれるようになりました。

実際、手紙を貰うと誰もがとても嬉しい気持ちになり、自分の事を評価してもらっていることに喜びを得たり、コミュニケーションのきっかけとなって交流が深まったという職員が多くおりました。手紙が記名式であることがポイントで、誰が誰に送ったものなのかがわからることが大事であると思います。また褒め合い活動の1ヶ月間は『良いところを見つけよう』と職員一人ひとりの発想がポジティブになり、モチベーションの向上に繋がっていると感じています。

手紙が入った給料袋を手渡す際、「自分には何通の手紙が入っているだろう?」とワクワクして給料袋を取りに来る職員の顔が印象的です。普段なかなか取りに来ない職員も、いつもより早く取りに来るのが楽しみにしていることを裏付けていると思います。

(福田雄三施設長談)

この活動の内容を手記にまとめ千葉老健協会広報へ投稿したところ、施設紹介を含め広報誌『なのはなだより』に掲載して頂きました。

これがきっかけで今回の活動報告の場を頂いたのですが、この活動を他施設の方々に知つてもらいたいという事と同時に、自分たちが行っている活動が紹介されれば、さらにモチベーションがアップして楽しく仕事をする事に繋がるのではないかという思いで投稿しました。

いくつになっても、褒められると嬉しいものですよね。一生懸命やつている仕事を上司や後輩、他職種の人から褒められると、照れもしますが嬉しい気持ちにもなりますます頑張ることができます。

そんな気持ちを大切にしたい!といふ声から、私たちの施設では有志を募って「楽しく仕事をしよう」プロジェクトを立ち上げ、平成二十五年三月に「褒め合いで月間トヨを立ち上げ、この月間の活動内容はいたって簡単。を実施しました。この月間の活動内容はいたって簡単。上司や後輩、職種の壁なく、職場内の人を「褒める」「ことで普段伝えられない感謝の気持ちを伝える」というものです。業務上でのスキルや知識など、褒める対象は何でもOK。手紙形式でまとめて、直接本人に渡します。特に印象的なものや、本人だけではなく皆さんにも広く伝えたいといふものについては、選抜して発表する場も設けました。発表時のBGMは十六小節のラブソングのテーマ。聞いていて涙を流す人もいたとか、「ないとか」。この月間中、職員は皆、お互いの「良い所探し」のアンテナがビンビンに。手紙をもらった人からは、「今までやってきたことは間違つていなかつたんだ」という気分きや、「手紙を額に飾つておきた」という喜びの声が多く。活動についても「普段は伝えられないことを職種・部署のしがらみなく伝えられる場に感謝しています」といった言葉が聞かれ、褒め合うことの大切さを改めて考えさせられました。これからも、やる気アップ!樂しさアップ!を目指して活動を続けていきます。

#### 千葉県老健協会広報委員会へ投稿した内容



「なのはなだより No76」(千葉県介護老人保健施設協会発行)掲載記事

以下の写真は実際に看護職員から介護職員へ書かれた手紙と、書かれた職員の感想文です。

## 看護職員から介護職員へ書かれた手紙

FROM 看護

TO 介護 水野二代

前回の褒め合の時を御前を羨む者をいたが、日中のフロアリーダーの時や夜勤の時、利用者様の細かな変化を報告してくれるので、よく観察してくれているのだなど、いつも感心します。あと、先日の朝温かいコーヒーをNSの私の分まで買ってきてくれてありがとう。美味しく頂きました。

## 褒め合い手紙の感想

介護職 水野二三代

給与袋を施設長に貰った時の感想は、看護職やディケア等の他部署の方が私を見てくれていた事に驚いたのが本音です。そして、気持ちが癒され、1つ成長した気分になりました。嬉しくて捨てられません。これからは見られている緊張感は増しますが、皆に褒められる喜びを日常でも実感して貰い、皆で楽しい職場を作りたいです。

このような声が聞かれたり、実際に褒められる手紙を貰う事が私自身も仕事をする励みとなり『もっと楽しく、そして良い仕事をする為に何かしよう』という原動力となっています。

余談ではありますが、この褒め合い月間は忘年会など職員全員が関わる行事の直前に実施するようにしています。この褒め合い活動が普段なら話さない人との話題の一つとなる為、会が盛り上がる事請け合いであります。これは偶然かもしれません、平成25年7月から現在まで、体調を理由にした場合を除けば介護職員の離職はゼロであり、これは当施設開設以来でも最長記録です。

この活動を通じ【楽しく・良い仕事】が増え、さらに利用者様からの「ありがとう」の言葉や嬉しそうな笑顔につながる事を期待し、これからも、やる気アップ！楽しさアップ！を目指して活動を続けていきたいと思います。

### 介護老人保健施設 はつらつリハビリセンター

千葉県千葉市若葉区小間子町3-132  
入所定員 80名（内、認知専門棟40名）  
通所リハビリテーション定員 20名  
職員人数 68名  
平成9年11月17日開設



記事中の写真などは「なのはなだより No76」（千葉県老人保健施設協会発行）より転載しました。

# 高齢者のリハビリテーション研修会

今回の研修は、『認知症の方へのアプローチと高齢者のリハビリテーション』と題して、午前と午後の部に分けて開催されました。午前は、「クローズアップ現代」や「ためしてガッテン」にも出演経験がある山口氏、午後はレクリエーションワーカーの経験もある佐近氏をお招きし、講義や演習が行われました。

日 時：平成26年8月29日(金)  
会 場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：52施設  
参加人数：95名

## 午前の部「認知症の理解と脳活性化リハビリテーションおよび効果評価」

講師 群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学講座  
教授 山口 晴保 氏



脳活性化リハビリにおいては、認知症の方と関わる際に笑顔で接し、褒めることや成功体験を感じてもらうことでやる気につながるというお話がありました。

最後には自らの著書「認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント」を販売されていました。

【山口晴保研究室ホームページ】<http://orahoo.com/yamaguchi-h/>  
こちらで先生の論文や認知テストの用紙などを見ることが出来ます。



## 午後の部「高齢者の主体性を尊重した余暇支援」

講師 新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科  
講師 佐近 慎平 氏



レクリエーションは相手に強要するものではなく、自己選択や自己決定が出来るように支援することが大切であるというお話がありました。

映像を見たり、グループワークを交えながら和やかな雰囲気の中、講義が行われました。



### ～参加者の声～

- ・講師の先生が出している本が本屋に行かなくても購入することが出来てよかったです。
- ・認知症の方との接し方次第では進行を遅らせることができると再確認できた。
- ・認知症だから…と諦めて接していた部分があったが、今回の講義で接し方を改めなければいけないと感じた。
- ・レクリエーションはさせるのではなく、したいと思わせることが大切だと思った。
- ・利用者のことを考えたレクが提供できているのか等を考え直す良い機会となつた。
- ・レクの大切さ、楽しんで行う気持ち、レクが与える力の大きさを改めて認識することが出来た。



# 接遇研修会

今、求められる接遇とは  
～自分の対応を振り返る機会にするとともに～

有限会社オーエスエー代表の釋左枝氏をお招きして、接遇に関する講義と演習が行われました。

講義では、接遇の基本や言葉づかいの基本などについて、演習では、基本姿勢・お辞儀の仕方や電話応対などのご指導がありました。

日 時：平成26年9月11日(木)  
会 場：HARD OFF ECOスタジアム  
参加施設：34施設  
参加人数：71名



## 〈釋 左枝 氏 プロフィール〉

- ・有限会社オーエスエー 代表
- ・国土交通省航空保安大学校航空情報科  
非常勤講師
- ・社会人向け研修の指導、医療法人等のサービスの質・体制の診断及び経営支援システム開発など幅広い分野で活躍

普段何気なく使う「お疲れ様です」といった言葉が、相手によって受け取り方が異なることにより、与える印象が悪くなるケースなどを例示されたことで、参加者の方から「今までの自分の対応を振り返るきっかけになった。」といった感想が聞かれました。



## ～参加者の声～

- ・実際やってみると難しく、心がけが大切ということを再度確認できた。
- ・普段正しいと思っていたことが誤りだったと知ることができた。
- ・「お疲れ様です」という言葉を好まない年代の方もいると知って驚いた。
- ・電話対応や分離礼など実践的な内容を学ぶことができてとてもよかったです。

# 現場すぐできる実践講座

## ～モチベーションの向上・人間関係の科学について学ぶ～

株式会社インターリスク総研 主任コンサルタント 斎藤 順是 氏をお招きし、「モチベーションの向上」と「人間関係の科学」をテーマに講義・グループディスカッション・ワークショップが行われました。

看護・介護・OT・PT・事務・支援相談員と多くの職種が県内各地より研修に参加しました。

日 時：平成26年9月19日(金)  
会 場：アトリウム長岡  
参加施設：26施設  
参加人数：41名



### 〈斎藤 順是 氏 略歴〉

東京大学教育学部学科卒業後東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。

- ・2007年より医療・介護専門職養成校の立ち上げに参画、開校後は教壇にも立つ。
- ・現在は株式会社インターリスク総研にて、主に福祉分野のリスクマネジメントや、組織人事に関わる調査研究・コンサルティングに従事。

### 講 義

### モチベーションと職場の業績・安全について

ポジティブとネガティブのバランスによるモチベーションリスクについて、ポジティブは物事を改善していくために効果があることを多くの実例で解説されました。ポジティブシンキング法についても実習を行いました。

### ワールド・カフェ

### 職場の人間関係構築方法について

グループワークは『ワールド・カフェ』方式で行われ、メンバーの組み合わせを変えながら、4人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているようで、最後に講師の心理学的解説で『気づき』に導かれながら、職場の人間関係構築方法についての理解を深めました。



### ～参加者の声～

- ・他施設の方とたくさん話せる時間があったって良かった。
- ・他施設での悩み、課題と改善策を共有できた。
- ・自分のモチベーションにも繋がった。
- ・演習を通して学習内容をフィードバックし、理解を深めることができた。
- ・モチベーションをあげるには、ポジティブな考え方が必要。「1日に3つの良いことを思い出すと幸福感がよりあがる。」、「ポジティブな人には気付きが多く、リスクマネジメントができる。」等、多くのことが学べた。

### 〈アンケート結果〉

期待以上の内容を学べた⇒17名  
期待通りの内容を学べた⇒23名

# 現場すぐできる実践講座

## ～職場におけるメンタルヘルスケア～

ウイングシード株式会社代表 平井妙子氏をお迎えし、「メンタルヘルスケアを学ぶことで、一人一人が心の健康状態の維持増進を図り、働きやすい職場環境作りを目指す」目的で、講義・演習が行われました。

日 時：平成26年10月9日(木)  
 会 場：新潟ユニゾンプラザ  
 参加施設：21施設  
 参加人数：36名



### 〈平井 妙子 氏 プロフィール〉

下関市立市民病院で看護師として勤務。外科（一般、整形、心臓）、循環器科、手術室、血管造影室等での勤務を経て退職。関心を持った「NLP」（神経言語プログラミング）を中心に心理分野を在職中より学び、米国NLP協会NLPトレーナーなどの資格を取得。カウンセリング、講演会・セミナーなどの企画運営、人材育成のための研修、資格取得講演会などを事業とするウイングシード株式会社を設立、代表取締役に就任。幅広くご活躍中。

労働者のストレス内容で最も多いのは「人間関係の悩み」であり、コミュニケーションの重要性とスキルアップの薦めについて説かれました。すべての人がメンタル不全になる可能性があります。メンタル不全のサインに自分では気付かなくても、他人が分かることは沢山あり、ひと言、声をかけることが大切です。「認知の歪のパターンを把握」「見方、捉え方をチェンジ」し、プラスの方向に見ることで相手に対する見方も変わってきます。「悩む」と「考える」は違うこと、第三者の視点で客観的に捉える方法を学びました。関心が高い内容であることから、活気ある演習が繰り広げられました。



### ～参加者の声～

- ・ストレスに対する対処法を知ることができた。
- ・相手の気持ちになって考えること、気持ちを聞き出すことの大切さが改めて分かった。
- ・相手が話を聞いていることが分かると話が弾み、聞いたふりをされると話す意欲が無くなることを体験した。聞いたふりをしていることがあるのではないかと反省した。
- ・客観的な視点を学ぶことで、小さなことで悩んでいたと気付かされた。
- ・具体的な演習を行ったことで、身を持って学ぶことができた。

# ひやり・はっと事故防止対応研修会

介護の現場における事故について「ひやり・はっと」の事例を基に検証や分析を行い、発生要因や事故後の対応について、参加された方々は限られた時間の中で意見を交わされていました。

日 時：平成26年10月28日(火)  
 会 場：アトリウム長岡  
 参加施設：36施設  
 参加人数：62名

## 賠償事故対応の実務について

講師 大石 将史 氏 三井住友海上火災保険株式会社

損害賠償責任の検討と正しい事故報告書作成のポイントと目的。初期の事故対応とサービス利用者及び家族との信頼関係が重要であることなどを、実例を見ながら解説して頂きました。



## ひやり・はっと報告から事故を未然に防ぐ

講師 大橋 幸子 氏 文京学院大学保健医療技術学部作業療法学科 教授

ヒューマンエラーの発生要因を分析する方法として「S H E L L モデル」の紹介。「ひやり・はっと原因究明シート」を使った事故予防対策について事例をもとに説明。グループディスカッションを行い「ひやり・はっと」の活かし方について理解を深めました。



### ～参加者の声～

- ・普段の仕事でわからない賠償責任の勉強ができて良かった。
- ・事故報告書の作成の仕方についてのポイントが理解できた。
- ・賠償事故の実際の事例など聞けて勉強になった。
- ・事例を基にS H E L L モデルを使用して演習が行えたので非常に分かりやすかった。
- ・ひやり・はっと報告書の詳しい書き方事例の検討等、職場に活かせそうな研修で良かった。
- ・原因究明シートを使用しグループディスカッションを行ない、大変勉強になった。
- ・事故防止の対策についてどのように対策や原因をつきとめていけばよいか参考になった。

# 褥瘡・拘縮対策研修会

平成26年12月10日に褥瘡・拘縮対策研修会として、下元佳子氏を講師に迎え、実技を中心に研修を行いました。

日 時：平成26年12月10日(水)  
 会 場：新潟ユニゾンプラザ  
 参加施設：43施設  
 参加人数：91名



## 〈下元 佳子 氏 プロフィール〉

理学療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー  
 生き活きサポートセンターうえるぱ高知代表、日本在宅褥瘡  
 創傷ケア推進協会理事

毎年大変好評で今回で3年連続での開催となりました。今回は15グループに分かれ、移乗・起き上がり・シーティング等の実技を行いました。まず力任せの悪い例を体験し、その後適切な介護方法を行った時に参加者から「オーッ」と声があがっていました。

またグローブ・スライディングシート・クッション等の説明があり、福祉用具の利用方法についても教えていただきました。



## ～参加者の声～

- 体重をかける方向など、とても分かりやすかったです。  
どういう言葉遣いだと伝わりやすいかなども勉強になりました。
- 今まで行っていたポジショニングが、いかに御利用者が安楽になれていないのか分かり、すぐに明日からでも実践していく事ができると思いました。
- 今まで行っていた介助方法が間違っていることが改めて分かりました。今後は、研修で学んだことを身に付け行っていきたいです。
- ポジショニングの仕方、クッションの置き方、今までしていた事が間違ったやり方だったと気付きました。

## 〈アンケート結果〉

期待以上の内容を学べた⇒67名  
 期待通りの内容を学べた⇒14名

# 看取りのかかわりが与えてくれるもの

## ～看取り学への道～

今年度の市民公開セミナーも、新潟県老健大会と併せて開催されました。講師として、看取り士で一般社団法人「なごみの里」代表の柴田久美子氏をお迎えし、ご講義いただきました。看取りという身近なテーマであったため、一般の方も数多く参加されました。

### 〈柴田久美子 氏 プロフィール〉

出雲市出身。日本マクドナルド勤務を経てスパゲティー店を自営。平成5年より福岡の特養の寮母を振り出しに、平成14年に600人の離島にてお年寄り看取りの家「なごみの里」を設立。本人の望む自然死で抱きしめて看取る実践を重ねる。平成22年に活動の拠点を本土に移し、現在は岡山市で在宅支援活動中。新たな終末期介護のモデルを作ろうとしている。また全国各地に死の文化を伝えるために死を語る啓発活動を行っている。著書に「いのちの革命」、「看取り士」、「ありがとうおばあちゃん」等、他にも多数ある。



4年前から自らを「看取り士」と名乗り、本人の望む自然死に寄り添い、抱きしめて看取るという実践をしていること、その実践に関する具体的なお話、この仕事をしようと思ったきっかけ等を、厳かなバックミュージックの中、ジェスチャーを交え、柔らかく、穏やかな口調で、私達に語りかけてくれました。終盤にかけては、看取りに対する熱い思いを語っていただき、「看護、介護の仕事はこのような尊い看取りの場面に立ち会うことのできる素晴らしい仕事であり、それがわかれれば離職も防げるのではないか」と力強く語っていただき、私達も身が引き締まる思いがしました。



### ～参加者の声～

- ・初めて「看取り士」という言葉を聞いた。家族の死について考える良いきっかけとなった。
- ・死についての捉え方が変わった。命の重みとその大切さを感じ、これからは看取りに立ち会えた時に感謝できるようになるのではと思った。
- ・死というものに対する考え方少し変わった。死は終わりと思っていたが、「死をもって人生が完成する。命のバトンを受け渡す」という言葉が印象的だった。
- ・この仕事は給料をもらって、「ありがとう」という言葉をもらえる素晴らしい仕事であるという言葉が印象的だった。

# 平成26年度 新潟県介護老人保健施設大会

平成26年11月21日（金）新潟ユニゾンプラザにおいて「新潟県介護老人保健施設大会」が74施設から325名のご参加を頂き開催されました。

7会場（口演5会場・ポスター2会場）にて口演発表75題、ポスター発表15題が行われました。

テーマも多種に渡り、たくさんの興味深い研究発表が行われていました。座りきれず立ち見になる会場もあり、聴く側も積極的に参加されていました。



## 開会式



新潟県福祉保健部  
副部長 池田 紀夫様



新潟県医師会  
理事 河合 千尋様



新潟県老人福祉施設協議会  
会長 市井 栄吉様

## 会場の様子



# ～学術奨励賞演題～

(施設五十音順・敬称略)

演題	施設名	発表者
一日利用体験を試みて	越南苑	上重高雄
「やむを得ない」は何も得ない！	希望の里松涛園	丸山修二
自力摂取に向けての当施設での取り組み	健進館	渡邊由輝
食事の異物混入を防ぐために改善したこと	国府の里	大島昌子
お金で買えない価値がある！サンキューカード	さくら苑	高橋祥子
さくらに広めようユマニチュードの輪	さくら苑	西村和美
タクティールケアを取り入れて	やまぼうし	佐藤孝則
役割作りによる周辺症状の軽減について	悠遊苑	佐山桃子



## 越南苑 上重さん

- まさか受賞するとは思っていなかったのでびっくりしました。それと同時に受賞出来てすごくうれしかったです。
- 一緒に取り組んで協力してくれたスタッフです。ありがとうございました。
- 昨年度から継続して研究を行ったことです。
- 日程調整を行い(職員)全員が一日体験をした事です。

## インタビュー内容

- 受賞した感想
- 受賞を誰に伝えたい？
- 研究のアピールしたい点は？
- 苦労した点は？

学術奨励賞を受賞された皆さんです。沢山の苦労があったからこそ、どなたもとても嬉しそうでした。

投票により選ばれた2題の発表者に受賞した感想等をインタービューさせて頂きました。

## ～受賞者の声～

### 悠遊苑 佐山さん

- まさか賞をいただけると思っていなかったので、とても嬉しかったです。本当にありがとうございました。
- 職場のみなさんに伝えたいです。この研究発表を行うにあたって、施設でプレ発表を聞いて下さり、何度も文章やパワーポイントを見てもらい、より良いものが出来るように協力して下さったので、本当にありがとうございましたと感謝の気持ちを伝えたいです。
- 認知症により、本当の想いを表現できずに、それが様々な行動となって現れることがあります。利用者様が訴えている言葉にできない想いを職員が生活背景や本人の言葉などから考え、より良く過ごしていただけるよう環境を整えることが大切だということをアピールしたいです。
- 沢山の文献を読みながら抄録を作ったり、伝わりやすい発表になるように何度も発表資料を作り直したので、そこが一番苦労しました。

# 老健とわたし

様々な職種の職員の方が、それぞれの専門性を活かしながら施設を支えています。その職員の方の声と人柄をお届けします。

## アルカディア上越 介護福祉士 柳澤俊一

- ① 上越市
- ② 9年目
- ③ 人生の先輩達にお褒めのお言葉を頂いた時。
- ④ アットホームでチームワーク抜群。
- ⑤ 利用者様に刺激を頂き毎日勉強で大変ですが、「初心」を忘れず利用者様に寄り添い、笑顔で楽しく過ごさせて頂いています。  
まだまだ未熟な私ですが人として、チームとして成長していきたいと思います。



## えがおと虹の森ふもと 支援相談員 丸山三枝子



- ① 上越市
- ② 4年目
- ③ 利用者の夢が語られる時。
- ④ 地域との連携が良好です。
- ⑤ 病院から施設に転換しまもなく4年となります。国が提唱する地域包括ケアシステムの中核となり、重度要介護状態になっても、いつまでも住み慣れた地域で暮らしができるよう努めてまいります。

## 親里 介護福祉士 渡邊睦

- ① 佐渡市
- ② 2年目
- ③ 声掛け等によって利用者様の新たな潜在能力（一面）を引き出せたのかもしれないと思った時やりがいを感じます。
- ④ 海が一望でき、船の往来を楽しめている利用者様もあります。また、海洋深層水のお風呂も魅力です。
- ⑤ 今よりもっと元気になって頂くことができるよう一人ひとりに合った適切な支援を行い、笑顔で元気な挨拶を続けていきたいです。



(質問内容)

- ① 施設所在地
- ② この職種についての年数
- ③ この仕事のやりがいを感じる時
- ④ 施設のチラシ自慢
- ⑤ メッセージ



そよかぜ倶楽部 理学療法士 小 黒 孝

- ① 上越市
- ② 6年目
- ③ 「楽になったよ」「またお願いね」などと声をかけて頂いたとき。また、日常生活での変化を感じてもらえたとき。
- ④ リハビリ室からの眺めです。窓から望む南葉山の四季を感じながらリハビリができます。
- ⑤ ご利用者一人ひとり、その人らしい生活を送れる手助けができればと思います。  
これからも初心と笑顔を忘れず頑張っていこうと思います。

日輪館 理学療法士 大 島 誠 雄

- ① 新発田市
- ② 16年目（老健勤務は1年目）
- ③ 利用者様から「ありがとう」と言っていたとき。
- ④ 施設の周りは自然が豊かで、お風呂は温泉です。
- ⑤ 利用者様が本人らしく生活できるようお手伝いいたします。



やまぼうし 事務職員 渡辺伸宏



- ① 胎内市
- ② 3年目
- ③ ご利用者の様子を見に来たご家族が、笑顔で、安心した雰囲気で帰られるのを見る時。
- ④ 協会事務局があり、様々な情報の交差点であるところ。
- ⑤ 職種は介護ではありませんが、利用者様やご家族様と看護・介護の専門職を繋ぐ玄関口として役立てるよう頑張っていきたいと思います。



# ひのひの広場

## アルカディア上越

当施設の玄関先では風神雷神を飾らせて頂いています。通所リハビリの利用者様が協力して1年近くかけて完成しました。玉絵の作成は開設当初より取り組んでいますが、なかなかの力作が完成しました。



## 親里

常に鉛筆を持ち身近なものをなんでも題材にしています。1枚の絵を20～30分程できめ細やかな特徴をとらえながら書きあげられます。モデルになられた利用者様も出来上がりに大喜びされ、お部屋に飾っておられます。



## 日輪館

この書の作者はアルツハイマー型の認知症を患い、記憶力の低下や失行、計算が困難などの症状が見られますが、字を書くことは比較的上手にできましたので、療法士がお手伝いをして書いていただきました。



## 編集後記

今シーズンも大変な寒波に見舞われ、皆様の生活にもずいぶん影響があつたのではないかと思います。冬もそろそろ終わりを迎え、ようやく春の訪れが聞かれるようになってまいりました。

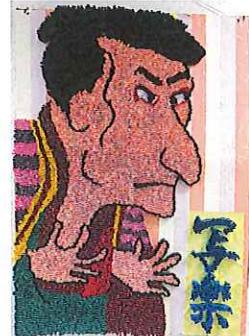
本誌もおかげさまで、第37号を充実した内容で発行することができました。発行に際し、原稿依頼に快くご協力頂いた皆様に、まずは紙面をお借りしてお礼申し上げます。私たち広報委員も取材を通じていろいろな経験をさせて頂けることを、嬉しく思っています。今後もさまざまな活動を紹介することで、より良い紙面にして行けるよう、頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

(広報委員一同)

## えがおと虹の森ふもと

集団リハビリの時間に利用者様が協力して作成した、ロールアートの写真です。割りばしに巻いて作った小さい紙を貼り、縦110cm、横90cmの超大作を完成させました。

出来あがった時は、大変感動しました。



## そよかぜ倶楽部

一昨年、世界遺産に登録された「富士山」を題材とした、壁面ちぎり絵を制作期間1か月・約60名のご利用者の共同制作にて完成させました。お披露目までの間、ご利用者には、何を題材にしているのかはあえて内緒にさせて頂いたことで、想像を膨らませながらの作りとなり、その分感動も倍増のご様子でした。



## やまぼうし

当施設は、重度の認知症の方が多く、入所者の中から選んで、職員と楽しみながら100羽鶴を作成しました。

入所者からは今度1,000羽鶴に挑戦したいとのことなので頑張りたいと思います。



## 新潟県介護老人保健施設協会広報誌 「老健にいがた」第37号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会広報委員会  
〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522  
介護老人保健施設やまぼうし内  
TEL (0254) 47-3303  
FAX (0254) 47-3370  
URL <http://niigata-rouken.org/>  
印刷 野崎印刷株式会社